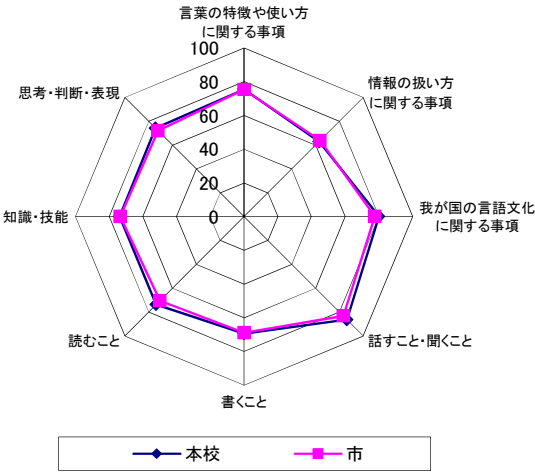


宇都宮市立陽北中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.5	75.4	68.3
	情報の扱い方にに関する事項	63.0	63.9	58.0
	我が国の言語文化にに関する事項	80.1	77.6	69.1
	話すこと・聞くこと	86.4	83.2	81.6
	書くこと	69.3	68.9	58.6
	読むこと	73.7	70.5	65.7
観点別	知識・技能	73.8	73.4	66.2
	思考・判断・表現	74.2	72.2	65.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

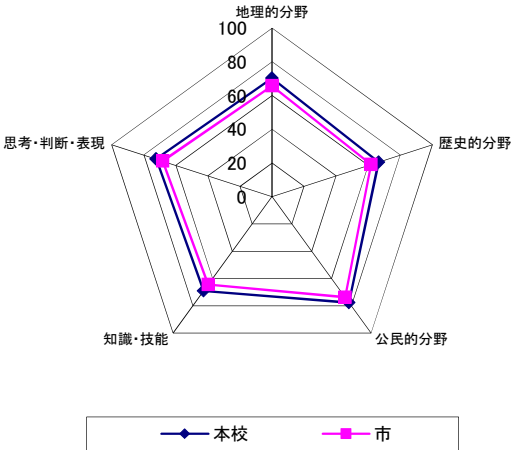
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○敬語の使い方にに関する問題の正答率が94.5と高く、市の平均を2.6ポイント上回った。 ●用言の活用は市の平均を0.9ポイント上回ったものの、正答率は53.7と比較的低かった。 ●漢字については「緩やか」の読みを答える問題で市の平均を7.5ポイント下回り、「備える」の書き取り問題は市の平均を5.1ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中で時間を確保し、漢字学習にあてる。また、日常生活の中でも、漢字を書く機会を積極的に取り入れる。紛らわしい漢字や画数の多い漢字は、特に繰り返し学習する機会を設ける。 ・用言の活用は覚える内容も多く、苦手意識が強い生徒も多いため、他の文法事項と関連させて復習する。
情報の扱い方にに関する事項	○説明的文章における情報と情報の関係を捉え、短文で回答する問題の正答率は81.1ポイントと、市の平均を1.3ポイント上回った。 ●情報の扱い方にに関する事項の正答率は市の平均とほぼ同じだが、他の領域と比較すると低い数値となっている。 ●資料の情報を整理し、情報をもとに意見を記述する問題の正答率は34.8ポイントと低く、市の平均を4.4ポイント下回った。	・接続詞や文末表現に注意し、文や段落が文章の中でどのような役割を果たしているのか考える機会を設ける。 ・情報と情報の関係を読み取るだけでなく、そこから自分の意見を述べる機会を設ける。また、自分で文章を書く際に、自分の意図したことと読み手の受け取り方が合致するように、正確に伝える文章を書く練習をする。その際、情報の順序やまとめ方を工夫して書くことを意識させる。
我が国の言語文化にに関する事項	○歴史的仮名遣いや古文の内容を現代語訳を手掛かりに捉える問題では、市の平均をそれぞれ4.4ポイント、6.2ポイント上回った。 ●行書の特徴を捉える問題の正答率は65.2ポイントで、市の平均を3.0ポイント下回った。	・書写の時間を通して、様々な偏や傍の行書における筆の運びや形の変化を学習する機会を設ける。 ・古文中の主語を意識して文章を捉えたり、現代語と意味の異なる意味を確認したりする学習活動を取り入れ、古文の内容をより正確に読み取れるようにする。
話すこと・聞くこと	○発表の内容を聞き取り、論理の展開について考える問題において、正答率が89.0と比較的高く、市の平均を8.9ポイント上回った。 ●発表の内容を踏まえ、考えを述べる記述式の問題の正答率は市の平均とほぼ同じだが、72.0と高い数字ではなかった。	・自分の考えと比べながら話を聞いて、自分の考えをまとめる活動を通して、話を聞く観点を学ぶ機会を設ける。 ・記述式の問題であり、無回答が多いことも予想されるため、書くことと組み合わせた学習活動を積極的に取り入れていく。
書くこと	○行数や段落など指定された条件を満たしている。 ○話題に対する自分の考えを明確に書いている割合は83.5と市の平均を1.8ポイント上回った。 ●書くこと全体の正答率は市の平均とほぼ同じだが、他の領域と比較すると低い数値となっている。 ●グラフから読み取った情報を数値を挙げて書く問題の正答率は48.2と低く、市の平均を4.8ポイント下回った。	・様々な場面で、自分の考えをまとめる場面を設ける。自分の書いた文章を、自分で推敲したり、他の人が書いた文章を遂行したりする活動を取り入れ、協同的な学びに生かす。 ・情報の扱い方にに関する事項と合わせて、資料の読み取り方や読み取ったことを言語化する学習活動を積極的に設ける。
読むこと	○読むこと全体の正答率は市の平均を2.8ポイント上回った。 ○論理の展開を評価する問題は6.2ポイント、表現の仕方を評価する問題は8.8ポイント市の平均を上回った。 ●文章を読んで、考えを広げたり深めたりする問題の正答率は市の平均を1.5ポイント下回った。	・説明的文章における筆者の考え方や、文学的文章の登場人物の思いなどを正確に読み取って評価したり、話題に対する自分の考えを文章に表したりする機会を設ける。 ・文章を読んだ後に初読の感想を書く活動を繰り返し、文章の内容を自分の意見と比較したり、自分の立場に置き換えて考えたりする習慣を付けさせる。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	70.2	65.7	56.7
	歴史的分野	66.5	61.7	54.8
	公民的分野	77.7	73.8	73.3
観点別	知識・技能	69.1	64.5	59.5
	思考・判断・表現	72.3	68.2	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

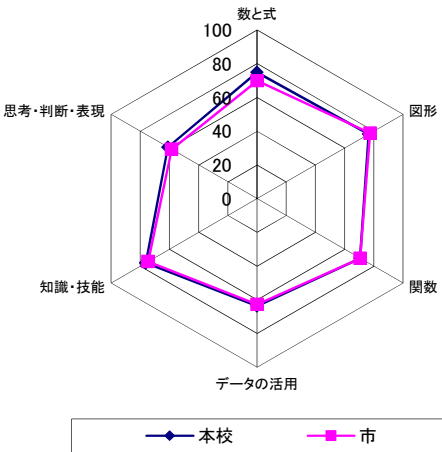
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○全体的に市の平均を上回っている。 ○九州地方の農業の特色について、資料に着目して考察し、表現する問題では、市の平均を11.1ポイント上回っている。 ●世界の姿では、市の平均をわずかに下回っている問題が複数あった。 ●日本の地形の特色についての問題では、市の平均を2.7ポイント下回っている。	・世界の姿では、大陸や海洋の位置、緯度や経度の理解をもとに、地図や地球儀を使って調べる学習をする機会を増やす。 ・複数の資料を組み合わせる活動の機会を増やす。様々な資料や問いに触れることで、資料を読み取る力や読み取ったことを考察して判断したり、文章で表現したりする活動の機会を増やす。
歴史的分野	○基礎的な知識・技能が定着している生徒の割合が高く、項目や事項の異なる複数の問題で市の平均を大きく上回っている。 ○資料の読み取りや複数の資料に着目して考察する活用問題では、市の平均を大きく上回っている。 ●打ちこわしに関する知識・理解の問題では、市の平均を1.0ポイント下回った。	・歴史的事象について、基礎的・基本的な知識・技能を確実に理解できるようにする。 ・資料(史料)に触れる機会を増やし、読み取る力を付ける。 ・複数の資料を組み合わせる活動の機会を増やし、資料を読み取る力や読み取ったことを考察して判断したり、文章で表現したりする活動の機会を増やす。
公民的分野	○全体的に市の平均を上回っている。 ○憲法改正の手続きに関する理解を問う問題では、市の平均を17.9ポイント上回っている。 ○公共の福祉について、資料を参考にして、自分の言葉で表現する活用問題では、市の平均を4.3ポイント上回っている。 ●フランス人権宣言の内容についての知識を問う問題では、市の平均を3.2ポイント下回っている。	・フランス人権宣言について、歴史的分野での学習を踏まえ、我が国の人権との関連を捉えながら理解を深めさせたい。 ・「対立と合意」「効率と公正」などの見方・考え方を重視しながら、問いを追究したり具体的な事例を考察したりして学習を進めるとともに、グループでの話し合いやディベートなどの議論、レポートなどの論述を取り入れ、自分の考えを自分の言葉で表現する活動を取り入れたい。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	74.9	69.9	66.4
	図形	76.4	77.4	68.1
	関数	70.7	70.6	60.8
	データの活用	63.7	62.7	54.2
観点別	知識・技能	76.1	74.6	70.3
	思考・判断・表現	61.0	58.4	43.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

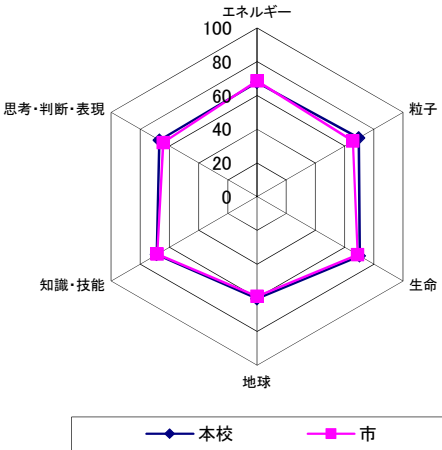
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数と式全体で、市の正答率を5.0ポイント上回った。 ○式の展開と因数分解の問題では、市の正答率を6.0ポイント上回った。 ○連立方程式の問題では、市の正答率を9.9ポイント上回った。 ●連続する3つの整数を文字式で表す問題は、市の正答率を2.8ポイントしか上回れなかった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「数と式」の領域の問題では、全問題で市の正答率を上回ることができた。計算力アップを目指して授業等でも指導し、生徒達も頑張ってきた成果が結果として表れたことはとても良かった。今後とも今の指導を続けていくことで、高校等に進学後も計算に自信を持って取り組めるように指導していきたい。整数を文字で表す問題は証明問題にもつながるのでしっかり理解できるように指導していきたい。
図形	○証明を完成させる問題では、市の正答率を0.6ポイント上回った。 ○直方体の位置関係の問題では、市の正答率を0.2ポイント上回った。 ●図形全体で、市の正答率を1.0ポイント下回った。 ●中点を垂直二等分線の作図によって求める問題では、市の正答率を5.4ポイント下回った。	・「図形」の領域の問題は全般的に理解度が低い傾向がみられた。時間をかけて説明し、簡単な問題から積み重ねることが大切である。証明の問題が市の正答率を上回ったのは良かったので、この分野の学力をますます向上させるために証明の問題を精選して生徒たちに解かせていきたい。作図の問題の正答率が低かったことを受け、これからは授業でも作図の問題をなるべく多く取り入れて復習させるなど指導を工夫していきたい。
関数	○関数全体で、市の正答率を0.1ポイント上回った。 ○変化の割合を求める問題では、市の正答率を2.3ポイント上回った。 ○1次関数のグラフ内の三角形の面積を求める問題では、市の正答率を1.2ポイント上回った。 ●1次関数のグラフから式を求める問題は、市の正答率を4.8ポイント下回った。	・変化の割合を求めたり点の座標を求めたり、グラフ内にできた三角形の面積を求める学力はついてきているので、ますます自信を持って解けるように授業等でも指導を工夫していきたい。グラフから式を求める問題については解き方をしっかり身に付けることで解けるようになると考えられるので、まず解き方のパターンをきちんと理解させたい。そのうえで、なるべくたくさん問題を解かせて慣れさせたい。
データの活用	○データの活用全体で、市の正答率を1.0ポイント上回った。 ○度数折れ線を読み取って説明する問題では、市の正答率を10.8ポイント上回った。 ●カードの確率の問題では、市の正答率を3.5ポイント下回り、箱ひげ図の問題では、市の正答率を2.7ポイント下回った。	・度数折れ線を読み取って説明するという難しい問題の正答率が市の平均より10ポイント以上も高かったことは、日頃から説明する問題をしっかり行わせる授業を実施してきた成果が出てとても良かった。確率の問題と箱ひげ図の問題は、いろいろな問題を解くことで問題に慣れればテスト等でも得点源になる分野なので、これからの授業でしっかり復習させたい。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	67.8	68.7	63.6
	粒子	69.7	65.7	64.2
	生命	70.3	68.9	64.4
	地球	60.6	59.2	54.3
観点別	知識・技能	68.7	68.4	64.4
	思考・判断・表現	66.8	64.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

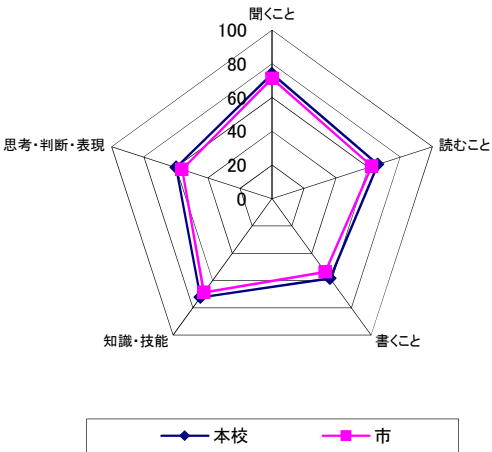
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○無回答率が市の平均を下回った。特に、選択問題は全員が回答していた。 ○「音の性質」「電流と磁界」の単元について、正答率が市の平均を上回った。 ●領域全体の正答率が市の平均を0.9pt下回った。 ●磁力線の模式図や、記録タイマーのテープの模式図から考える問題で、特に正答率が低かった。	・実験をする回数が多い単元ほど正答率が高くなっている。実験をする機会を多く設けていく。 ・模式図を読み取ることに課題がある。実験結果を模式図に表現させたり、模式図と実物写真を比較させたりする活動を増やす。
粒子	○領域全体の正答率が市の平均を4.0pt上回った。 ○グラフや表をもとに回答する設問で、正答率が市の平均を上回った。 ○短文解答問題の正答率が高い。 ●実験結果と一致する模式図を選ぶ問題の正答率が、市の平均は上回ったものの、5割を切る数値であった。	・実験結果をグラフや表にまとめ、表現させる指導を継続して行う。 ・実験結果を模式図に表す活動を新たに取り入れる。 ・元素記号や化学式、化学反応式を覚えて活用することに課題がある。粒子分野の学習に限らず、年間を通して繰り返し触れる機会を設けて、定着をはかっていく。
生命	○領域全体の正答率が市の平均を1.4pt上回った。 ○市との比較で、2年次での学習内容(動物の体のつくりとはたらき)の正答率が特に高い傾向にある。 ●胚の成長の段階ごとの模式図を正しく並べ替える問題の正答率が、市の平均を下回った。 ●短文解答問題の正答率が低い。	・語句を説明させる課題や、小テストを課すことを通して、基礎的な語句が定着するようにしていく。 ・模式図を読み取ることに課題がある。観察したものをスケッチさせたり、模式図と実物写真を比較させたりする活動を増やす。
地球	○領域全体の正答率が市の平均を2.6pt上回った。 ○「火山」分野の正答率が、市の平均を3pt程度上回った。 ○前線の通過に伴う天気の変化の正答率が市の平均を7.3pt上回った。 ●寒冷前線と温暖前線の断面の模式図を選ぶ問題の正答率が、市の平均は上回ったものの、5割を切る数値であった。	・気象観測のグラフの読み取りに課題がある。気温と湿度の関係、気圧と天気の関係などに注目させ、規則性を見出させる。 ・模式図の読み取りについて、得たい情報と注目すべき場所の対応が不足しているようだ。模式図から情報を探させるような演習の機会を増やしていく。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	74.0	71.2	65.4
	読むこと	65.9	62.1	56.9
	書くこと	58.4	53.8	42.5
観点別	知識・技能	72.4	68.8	64.7
	思考・判断・表現	59.9	56.1	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○英文の内容理解、対話における適切な応答を類推する問題において、7問中5問が2～6ポイント程度市の正答率を上回っている。 ○まとまりのある文を聞いてその概要を把握したり要点を正確に捉えて応答する問題において、前者は5.1ポイント、後者は6.2ポイント市の平均正答率を上回った。 ●短文を聞いて内容を理解する問いにおいて、市の正答率と比して平均3ポイント程度下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・毎時の活動として既習内容を活用したディクテーションや口頭試問を実施し、音声情報を正確に捉える力を伸ばす活動を取り入れる。 ・ALTやデジタル教科書上の音声データを活用し、正確な発音を身に着ける指導を行うことで聞き取り能力の向上を図る。
読むこと	○全13問中11問において、市の正答率を上回った。 ○対話文を読み、その分構造や文法事項について答える6つの問い全てで市の正答率を上回った。中には9.3ポイントと顕著に上回る問いもあった。 ●長文読解問題において正答率が5割を切っている。	・単語や文法知識の自然な習得を目指し、既習単元の内容であっても他の技能や活動と関連させながら長期的な視点で定着を促す指導を行う。 ・教科書本文等の短い文章の読み取りを繰り返し行い、前置詞・接続詞・代名詞など文章を読み解く上で重要な語句への意識を高める指導を行う。
書くこと	○領域全体の正答率が市の正答率より4.6ポイント上回った。 ○疑問詞を使って対話の流れにあった英文を書く問題では、市の正答率を7.5ポイントと大幅に上回った。 ●3文以上の英作文において無回答率が23ポイントとなっている。	・各単元で新表現を活用した作文活動や小テストを継続的にを行い、文法知識の定着を目指す。 ・教科書の本文等を利用して、読み取った文章の内容を簡便な言葉で再構築するリテリング活動を取り入れる。 ・英作文の時間において、ALTとの協力やT.T.を生かしながら即時のフィードバックを行い、作文の正確性をより向上させていく。

宇都宮市立陽北中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学力向上を目指す学習指導の改善と生徒の家庭学習の充実	・学習活動の展開を工夫し、より高いレベルでの学習態度の育成を図る。宿題や課題の出し方を工夫したり、自主的に家庭学習に取り組む態度を強化する。	・宿題等に対する取組は、各学年において低下傾向にある。ただし、3学年では80%以上の肯定的回答が見られ、上級学年になるほど十分な取組ができています。 ・家庭学習に関する肯定的回答は、2学年を除いて下降傾向にあり、学習時間の確保が困難な様子が伺える。 ・日常的な家庭での学習時間の確保については、1時間未満の割合が、1・2学年ではおよそ15～27%、1時間程度が20～26%程度と最も多い。3学年では、検査を実施した時期を考えると、受験勉強に時間を割く傾向が予想され、平日・休日共には3時間以上取り組んでいる様子が伺える。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・「わかる授業」の実践 ・家庭学習の計画と実践・評価 ・読書習慣の定着と向上
--